

作成日 2011/10/21  
改訂日 2018/01/01

## 安全データシート

### 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 クリーンコート03  
製品コード M090168  
供給者の会社名称 サンライズ株式会社  
住所 大阪市中央区道修町1-7-1(北浜TNKビル10階)  
担当部門 技術開発本部  
電話番号 06-6202-7700  
FAX番号 06-6202-7900  
電子メールアドレス [sunrise-ho@sunrise-bg.co.jp](mailto:sunrise-ho@sunrise-bg.co.jp)

緊急連絡電話番号 06-6202-7700  
推奨用途及び使用上の制限 外壁目地部シーラントの汚れ(塵・埃付着)防止用エアゾール

### 2. 危険有害性の要約 GHS分類

物理化学的危険性 可燃性又は引火性ガス(化学的に不安定なガスを含む) 区分1  
エアゾール 区分1  
健康有害性 急性毒性(吸入:蒸気) 区分4  
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 区分2A  
生殖毒性 区分1B  
特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分1(腎臓 全身毒性 中枢神経系)  
特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分2(視覚器)  
特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分3(麻酔作用 気道刺激性)  
特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分2(肝臓 血管 視覚器 中枢神経系 脾臓)  
上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

### GHSラベル要素

#### 絵表示



#### 注意喚起語 危険有害性情報

危険  
H220 極めて可燃性又は引火性の高いガス  
H222 極めて可燃性又は引火性の高いエアゾール  
H229 高压容器:熱すると破裂のおそれ  
H319 強い眼刺激  
H332 吸入すると有害  
H335 呼吸器への刺激のおそれ  
H336 眠気又はめまいのおそれ  
H360 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ  
H370 腎臓、全身毒性、中枢神経系の障害  
H371 視覚器の障害のおそれ  
H373 長期にわたる、又は反復ばく露による肝臓、血管、視覚器、中枢神経系、脾臓の障害のおそれ

注意書き  
安全対策

使用前に取扱説明書を入手すること。(P201)

すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。(P202)

熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。禁煙。(P210)

裸火又は他の着火源に噴霧しないこと。(P211)

使用後を含め、穴をあけたり燃したりしないこと。(P251)

ガスの吸入を避けること。(P261)

ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。(P261)

粉じん、ヒュームの吸入を避けること。(P261)

取扱い後はよく手を洗うこと。(P264)

取扱い後はよく眼を洗うこと。(P264)

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)

屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。(P271)

保護手袋を着用すること。(P280)

保護眼鏡、保護面を着用すること。(P280)

吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

(P305+P351+P338)

ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。(P308+P313)

気分が悪い時は、医師に連絡すること。(P312)

気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。(P314)

特別な処置が必要である。(P321)

眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。(P337+P313)

漏洩ガス火災の場合、漏洩が安全に停止されない限り消火しないこと。(P377)

安全に対処できるならば着火源を除去すること。(P381)

保管

換気の良い場所で保管すること。(P403)

容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。(P403+P233)

施錠して保管すること。(P405)

日光から遮断し、50°C以上の温度にばく露しないこと。(P410+P412)

廃棄

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)

### 3. 組成及び成分情報

#### 化学物質・混合物の区別

#### 混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	官報公示整理番号		CAS番号
		化審法番号	安衛法番号	
ジメチルエーテル	55～65%	(2)-360	該当せず	115-10-6
イソプロピルアルコール	30～40%	(2)-207	494	67-63-0
メタノール	1～5%	(2)-201	560	67-56-1
イソブタノール	1%未満	(2)-3049	477	78-83-1
エチレングリコールモノブチルエーテル	1%未満	(2)-407,(2)-2424,(7)-97	79	111-76-2
シリカ	1%未満	(1)-548	312	7631-86-9

分類に寄与する不純物及び安定化添加物

情報なし。

### 4. 応急措置

#### 吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。

特別な処置が必要である。

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

#### 皮膚に付着した場合

水と石鹸で洗うこと。

皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。

医師の診断、手当てを受けること。

医師に連絡すること。

特別な処置が必要である。

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

#### 眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が持続する場合、医師の診断、手当てを受けること。

医師に連絡すること。

特別な処置が必要である。

気分が悪い時は、医師に連絡すること。

#### 飲み込んだ場合

口をすすぐこと。

医師の診断、手当てを受けること。

医師に連絡すること。

特別な処置が必要である。

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

### 5. 火災時の措置

#### 消火剤

粉末、二酸化炭素、泡。

#### 使ってはならない消火剤

水

#### 特有の危険有害性

エアゾールボンベは周辺火災などにより爆発する恐れがある。

ガス及び液体成分は極めて燃えやすい。

特有の消火方法

付近の着火源を断ち、保護具を着用して風上から消化する。

周辺火災の場合は過熱による爆発及び類焼を防ぐために散水する。

消火を行う者の保護

二次災害を防ぐために十分に離れた場所から消火活動に当たる。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、  
保護具及び緊急時措置

漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。

関係者以外は近づけない。

風上に留まる。

立ち入る前に、密閉された場所を換気する。

作業者は適切な保護具(『8. ばく露防止及び保護措置』の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

低地から離れる。

ガスが拡散するまでその場所を隔離する。

漏洩場所を換気する。

適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。

環境中に放出してはならない。

河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。

環境に対する注意事項

漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。

危険でなければ漏れを止める。

可能ならば、漏洩している容器を回転させ、液体でなく気体が放出するようにする。

容器を冷却して蒸発を抑え、発生した蒸気雲を分散させるため散水を行う。

蒸気抑制泡は蒸発濃度を低下させるために用いる。

少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で覆い更にプラスチックシートで飛散を防止し、雨に濡らさない。クロロシランはAFFF耐アルコール性中性発砲消火剤を使い蒸気発生を抑える。

少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。

少量の場合、漏洩物は清潔な帯電防止工具を用いて集め、プラスチック容器に入れゆるく覆いをし、後で廃棄処理する。

乾燥した土、砂あるいは不燃性物質で吸収し、あるいは覆って容器に移す。

漏洩物を掃き集めて空容器に回収し、後で廃棄処理する。

封じ込め及び浄化の方法  
及び機材

すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

水を漏洩物に接触させない。

容器内に水を入れてはいけない。

プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。

二次災害の防止策

7. 取扱い及び保管上の注意  
取扱い

技術的対策

安全取扱注意事項

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。  
使用前に使用説明書を手に入ること。  
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。  
周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。  
目や口に入ると刺激を受けることがあり、使用の際には十分気を付けること。  
内容物を故意に吸い込まないこと。  
裸火又は高温の白熱体に噴霧しないこと。  
換気の良い場所で取り扱うこと。  
加圧容器は使用後穴をあけたり燃したりしないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。  
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。  
空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。

接触回避

衛生対策

安全な保管条件

排気用の換気を行うこと。  
接触、吸入又は飲み込まないこと。  
『10. 安定性及び反応性』を参照。  
取扱い後はよく手を洗うこと。  
専用の高圧ガス容器に保管する。

保管

スチール缶の場合、缶が錆びて破裂する原因になることがあり、湿気の多い場所には保管しないこと。  
長期間使用しないで置き忘れていたりしないこと。  
保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気設備を設ける。  
保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はりを不燃材料で作ること。

保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けないこと。

保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とすること。

熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。禁煙。

着火源から離して保管すること。

換気の良い場所で保管すること。

酸化剤、酸素、爆発物、ハロゲン、圧縮空気、酸、塩基、食品化学品等から離して保管する。

日光から遮断し、50℃を超える温度にばく露しないこと。

酸化剤から離して保管する。

特に技術的対策は必要としない。

冷所、換気の良い場所で保管すること。

容器を密閉して保管すること。

施錠して保管すること。

安全な容器包装材料

高圧ガス保安法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

耐圧強度と気密性を有する容器を使用する。

消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

消防法で規定されている容器を使用する。

国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

包装、容器の規制はないが密閉式の破損しないものに入れる。

8. ばく露防止及び保護措置

	管理濃度	許容濃度 (産衛学会)	許容濃度 (ACGIH)
ジメチルエーテル	未設定		
イソプロピルアルコール	200ppm	【最大許容濃度】 400ppm(980mg/m <sup>3</sup> )	TWA 200 ppm, STEL 400 ppm
メタノール	200ppm	200ppm(260mg/m <sup>3</sup> )( 皮)	TWA 200 ppm, STEL 250 ppm (Skin)
イソブタノール	50ppm	50ppm(150mg/m <sup>3</sup> )	TWA 50 ppm, STEL -
エチレングリコールモノブチルエーテル	25ppm		TWA 20 ppm, STEL -
シリカ	未設定	【粉塵許容濃度】(第1種粉塵) 吸入性粉塵 0.5mg/m <sup>3</sup> 総粉塵 2mg/m <sup>3</sup>	

設備対策

防爆仕様の局所排気装置を設置する。  
 防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。  
 本製品を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。  
 高熱取扱いで、工程でガスが発生するときは、空気汚染物質を管理濃度・許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。  
 高熱取扱いで、工程でガスが発生するときは換気装置を設置する。  
 取扱いについては全体換気装置を設置した場所で行う。  
 空気中の濃度を制御するには、一般適正換気で十分である。

保護具

呼吸用保護具

必要に応じて個人用呼吸器保護具を使用すること。

手の保護具  
 眼の保護具

必要に応じて個人用保護手袋を使用すること。  
 眼の保護具を着用すること。  
 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)。

皮膚及び身体の保護具

顔面用の保護具を着用すること。

必要に応じて個人用の保護衣、保護面を使用すること。

9. 物理的及び化学的性質

外観

物理的状态  
 形状  
 色

エアゾール

臭い

無色透明  
 有機溶剤臭

臭いのしきい(閾)値

データなし

pH

データなし

融点・凝固点

データなし

沸点、初留点及び沸騰範囲

データなし

引火点

11° C

蒸発速度(酢酸ブチル=1)

データなし

燃焼性(固体、気体)	データなし
燃焼又は爆発範囲	
蒸気圧	データなし
蒸気密度	データなし
比重(密度)	データなし
溶解度	水に不溶、有機溶剤に可溶
n-オクタノール／水分配 係数	データなし
自然発火温度	データなし
分解温度	データなし
粘度(粘性率)	データなし
動粘性率	データなし

#### 10. 安定性及び反応性

反応性	情報なし。
化学的安定性	情報なし。
危険有害反応可能性	情報なし。
避けるべき条件	通常の使用では問題ない。
混触危険物質	情報なし。
危険有害な分解生成物	燃焼時にNO <sub>x</sub> 、CO <sub>x</sub> 、SO <sub>x</sub> が発生する可能性がある。

#### 11. 有害性情報

急性毒性	類推値	吸入(蒸気) LC50 18975.902 ppm
	吸入	分類結果は急性毒性(吸入:蒸気)一区分外となるが、分類できない成分がカットオフ値以上含まれるため急性毒性(吸入:蒸気)一分類できないとした。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性		混合物の急性毒性推定値が18975.902ppmのため急性毒性(吸入:蒸気)一区分4とした。
眼に対する重篤な損傷性 又は眼刺激性		データなし 混合物の成分の眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性一区分2Aの濃度合計が35.04%のため眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性一区分2Aとした。
呼吸器感作性又は皮膚 感作性		データなし
生殖細胞変異原性		データなし
発がん性		データなし
生殖毒性		混合物の成分の生殖毒性一区分1Bの濃度から生殖毒性一区分1Bとした。
特定標的臓器毒性(単回 ばく露)		混合物の成分の特定標的臓器毒性(単回ばく露)一区分1(腎臓)の濃度から特定標的臓器毒性(単回ばく露)一区分1(腎臓)とした。
		混合物の成分の特定標的臓器毒性(単回ばく露)一区分1(全身毒性)の濃度から特定標的臓器毒性(単回ばく露)一区分1(全身毒性)とした。
		混合物の成分の特定標的臓器毒性(単回ばく露)一区分1(中枢神経系)の濃度から特定標的臓器毒性(単回ばく露)一区分1(中枢神経系)とした。
		混合物の成分の特定標的臓器毒性(単回ばく露)一区分1(視覚器)の濃度から特定標的臓器毒性(単回ばく露)一区分2(視覚器)とした。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

混合物の成分の特定標的臓器毒性(単回ばく露)－区分3(麻酔作用)の濃度から特定標的臓器毒性(単回ばく露)－区分3(麻酔作用)とした。

混合物の成分の特定標的臓器毒性(単回ばく露)－区分3(気道刺激性)の濃度から特定標的臓器毒性(単回ばく露)－区分3(気道刺激性)とした。

混合物の成分の特定標的臓器毒性(反復ばく露)－区分2(肝臓)の濃度から特定標的臓器毒性(反復ばく露)－区分2(肝臓)とした。

混合物の成分の特定標的臓器毒性(反復ばく露)－区分2(血管)の濃度から特定標的臓器毒性(反復ばく露)－区分2(血管)とした。

混合物の成分の特定標的臓器毒性(反復ばく露)－区分1(視覚器)の濃度から特定標的臓器毒性(反復ばく露)－区分2(視覚器)とした。

混合物の成分の特定標的臓器毒性(反復ばく露)－区分1(中枢神経系)の濃度から特定標的臓器毒性(反復ばく露)－区分2(中枢神経系)とした。

混合物の成分の特定標的臓器毒性(反復ばく露)－区分2(脾臓)の濃度から特定標的臓器毒性(反復ばく露)－区分2(脾臓)とした。

吸引性呼吸器有害性

データなし

## 12. 環境影響情報

水生環境有害性(急性)  
水生環境有害性(長期間)  
生態毒性  
オゾン層への有害性

データなし  
データなし  
情報なし。  
データなし

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事などの許可をうけた、産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

特別管理産業廃棄物のため、廃棄においては特に「破棄物の処理及び清掃に関する法律」の特別管理産業廃棄物処理基準に従うこと。

乾燥物は廃プラスチック類に分類される(安定型産業廃棄物)。

スプレー缶を廃棄する場合は、自治体により廃棄方法が異なるので該当する自治体の規定に従うこと。空容器類を廃棄するときは、内容物を完全に除去した後、産業廃棄物として処理または回収にまわす。( )に管理型・安定型の区分を示す。

外箱、紙管など紙製容器・包装: 回収又は紙くずとして処理(単体で管理型産業廃棄物、付着成分がある場合も管理型産業廃棄物)。

汚染容器及び包装



金属缶、金属ドラム、金属チューブ類: 金属くずとして処理(単独で安定型産業廃棄物、付着成分がある場合はその安定型・管理型分類に従う)。

ガラス容器: ガラスくずとして処理(単独で安定型産業廃棄物、付着成分がある場合はその安定型・管理型分類に従う)。

プラスチック製のボトル、チューブ、袋など: 廃プラスチックとして処理(単独で安定型産業廃棄物、付着成分がある場合はその安定型・管理型分類に従う)。

#### 14. 輸送上の注意 国際規制

海上規制情報	IMOの規定に従う。
UN No.	1950
Proper Shipping Name	AEROSOLS
Class	2.1
Packing Group	II
Marine Pollutant	Not Applicable
Transport in bulk according to MARPOL 73/78, Annex II, and the IBC code.	Not Applicable
航空規制情報	ICAO/IATAの規定に従う。
UN No.	1950
Proper Shipping Name	AEROSOLS
Class	2.1
Packing Group	-

#### 国内規制

陸上規制情報	該当しない。
海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
国連番号	1950
品名	エアゾール
国連分類	2.1
容器等級	II
海洋汚染物質	非該当
MARPOL 73/78 附属書II 及びIBCコードによるばら積み輸送される液体物質	非該当
航空規制情報	航空法の規定に従う。
国連番号	1950
品名	エアゾール
国連分類	2.1
等級	II
緊急時応急措置指針番号	126

#### 15. 適用法令 労働安全衛生法

第2種有機溶剤等(施行令別表第6の2・有機溶剤中毒予防規則第1条第1項第4号)

イソプロピルアルコール

第2種有機溶剤等(施行令別表第6の2・有機溶剤中毒予防規則第1条第1項第4号)

名称等を表示すべき危険物及び有害物(法57条1、施行令第18条)

イソプロピルアルコール 政令番号:2の3

メタノール 政令番号:36

名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)

ブタノール 政令番号:477

プロピルアルコール 政令番号:494

エチレングリコールモノノルマルブチルエーテル 政令番号:79

メタノール 政令番号:560

シリカ 政令番号:312

第4類 第一石油類(非水溶性)

消防法

## 16. その他の情報

連絡先

参考文献

『1. 化学物質等及び会社情報』に記載。

JIS Z 7253-2012 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法—ラベル,

作業場内の表示及び安全データシート(SDS)

経済産業省 事業者向けGHS分類ガイダンス(平成25年度改訂版)

JIS Z 7252-2014 GHSに基づく科学物質等の分類方法

社団法人 日本化学工業協会 GHS対応ガイドライン(2012年7月)

日本ケミカルデータベース(株)MSDS作成システム「MSDSnavi」により作成。

危険・有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取扱いには十分注意して下さい。

以前にお渡しした本製品の製品安全データシートをお持ちの方は破棄して下さい。

法改正や製品の改良によりSDSを改訂する場合がありますので、作成・改訂日が2年以上たっている場合は

最新版であるかどうかご確認下さい。

2016年6月1日からの労働安全衛生法の改正内容に対応しています。

その他